



## 長期宿泊体感活動で 「メシが食える大人」に！

大館市立釈迦内小学校 教諭 藤原 一輝  
教諭 佐藤 理恵子

### 1 はじめに

本校では、「釈迦内農業商（笑）学校」の名のもと、「社会人基礎力」（前に踏み出す力・チームで働く力・考え抜く力）の向上を目指して、実践的食育やふるさと・キャリア教育に力点を置いて取り組んできた。特に、やったことがないことにこそ、汗をかいて協力しながら挑戦する価値があり、時間が経過して頭は忘れても体は一生覚えているものである。それを、本校では「体感学習」と呼んでおり、長期の宿泊を伴う活動は「体感学習」を行う絶好の機会である。「木古内まちづくり体験観光推進協議会」と GIVE&GIVE の関係で共に創りあげた「長期宿泊体感活動」は、直接体験活動を通した人格形成をねらいとして実施している。

### 2 活動の実際

#### (1) 体制づくりに関わる代表的な3つの課題（「農産漁村交流プロジェクト」参考）

##### ①どこへ行き、どのようなプログラムを組めばいいのか

「宿育（造語）」活動方針を、職員・児童・保護者・地域で共有する。

（例）「ちょっと危険なことこそ楽しい！」「体験格差を無くしたい」

「そこに暮らしている人と交流させたい」「大館で体験できないことを！」

これらを具現化するために、「自然体験ができるもの」「生活体験が豊かになるもの」「ふれあいや交流があるもの」という視点でプログラムを選考。最も適した場として北海道木古内町を選択した。さらに、大館市と函館を結ぶ沿線の途中にあるので、旅程を変更する必要もなく、交通費の負担を軽減できる。

また、現地へ直接赴いて事前打ち合わせを行う。それは、育てたい子どもの姿を共有するとともに、顔の見えるお付き合いを通して街が活性化されることに繋がる。

##### ②教員の負担が大きい、日数を確保するのが難しい

5年生：「宿泊体感学習Ⅰ」大館少年自然の家（2泊3日）

～夏休み後半に授業日として設定～

6年生：「宿泊体感学習Ⅱ」北海道木古内町&函館市（4泊5日）

～夏休み前半に授業日として設定～

※今年度は引率規定の4名+希望職員9名の13名でサポート。

※全員参加の学校行事→教育課程内に位置付け。

##### ③費用の負担増になるのではないかな

補助金を活用 H22年「豊かな体験活動推進事業」

H23年～「秋田発・子ども双方向交流プロジェクト」

※釈迦内SPからの還元金や、ひまわりアイスの売上金の一部を活用。また、児童会活動のアルミ缶回収や、「総合的な学習の時間」内の創作料理の販売活動で得た利益も、

その一部に充てられている。

※保護者へ啓蒙し、1年生から積立金（宿泊体感学習費&卒業関係費）を実施。

## (2) 今年度実施の体験プログラムの概要

- ①ダイブ体験・事前に安全を確認し、5～6mの防波堤から海へダイブ。（希望制）
- ②民泊体験・児童3～4人で1軒に民泊。名残惜しく涙する児童や地域の方も。
- ③パークゴルフ体験・町民や木古内小児童と交流。
- ④漁船体験・ホタテの稚貝放流。波に揺れる漁船。
- ⑤地引き網体験・引き揚げた後「ホタテ&ホッキ貝の殻むき」「魚の三枚おろし」体験。
- ⑥砂金取り体験・水の中では沈む金の重さを利用して砂金を取る。
- ⑦お寺に宿泊体験・夜のきもだめし。荷物や布団の整理整頓など自分のことは自分で。
- ⑧朝の搾乳・子牛の世話体験・牛の体温（約38度）を実感。子牛の餌やりを体験。

※その他「真昆布干し体験」「バーベキュー」「ダチョウ見学」「木古内小との交流」  
「畑の収穫物でカレーライスづくり」「トマトの収穫」「木古内特産のお土産」

## (3) 「長期宿泊体感学習」実施後も活動継続

- ・「木古内まちづくり体験観光推進協議会」会員の釈迦内小訪問&大館市内研修。
- ・乾燥させた真昆布は、数週間後に配送。また、放流した稚貝も1年後に届けられ、中学校と連絡し合って、中1生が小学校に取りに来る交流会も実施。
- ・民泊でお世話になったお宅へ暑中見舞い。心通う交流が続く。

## 3 宿泊体感学習を経験した児童や保護者の声

### (1) 児童

- ・大館では体験できない自然や環境の中で活動することができて嬉しかった。
- ・友情が深まったり、みんなと何かをする楽しさを実感したりした。
- ・魚さばき体験や、農作物の収穫・調理をしてみて、改めて「食」の大切さが分かった。
- ・自然の多さや豊かさに感動し、自然環境を考えることにつながった。
- ・漁業や酪農で働く人たちの苦勞や努力を間近で感じる事ができた。

### (2) 保護者

- ・何事にも、積極的に取り組むようになった。
- ・家のお手伝いなど、自分で考えて自主的に行動するようになった。
- ・地域の行事やボランティア活動に参加するなど、自信がついたように感じる。

## 4 成果と課題

- 民泊を取り入れたことで、木古内町の方とより深く交流することができた。
- プログラムを精選したことで、1つ1つの活動をじっくり体感することができた。
- 木古内特産のお土産を販売する機会を設定し、人や物がさらに流通するようになった。
- 児童グループを担当するスタッフを含めた、育てたい子どもの姿の更なる共有化。
- 宿泊体感学習でできるようになったことを、いかに日常に生かし続けていくか。